

令和7年度 第1回 災害時要援護者支援連絡会 議事要旨

日時：令和7年9月17日(水)午後2時から午後3時30分

場所：中央北生涯学習プラザ 小ホール

1 議題等

- (1) 新しいハザードマップについて（説明・質疑応答等）
- (2) 避難行動要支援者の避難支援体制づくりに向けた啓発等事業実施にかかる意見交換等について（説明・意見交換）

2 主な協議内容（○意見等、●回答）

- (1) 新しいハザードマップについて

令和7年3月に更新されたハザードマップについて、資料1に基づいて説明を行い、その内容の質疑応答を行った。

（主な質疑内容）

- ハザードマップが全戸配布されているが、皆様に、前回のハザードマップとどこが違うのか見比べてほしいと思う。
ハザードマップの着色がないから安全ではなく、想定外も含めて、避難行動を考えてほしい。
また、自宅以外で訪れるところのハザードマップも確認してから行動してほしい。
- ご意見を参考に、皆様ご自身でハザードマップを確認し、行動につなげていただきたい。
- 本連絡会で話題となっていることが、会議内だけで済んでいる印象を受けている。
団体内でも、今後の活用のために、皆で一緒に学習し、学んでいきたいと思う。
- 団体等のニーズに応じて、出前講座等で説明をさせていただきたい。
- 福祉事業所を営んでいるが、開所時間中に発災した場合の避難について、不安を感じている。
発災前に、指定避難所へ避難することについて、周辺の地域住民に言うておく必要があるのか、直接避難してもいいものなのか。
普段からのつながりをどのようにしたらいいか。
- 指定避難所に避難することについて、事前に地域住民に約束する必要はない。
避難訓練をする際に、地域住民とともに訓練を実施し、平時から顔の見える関係をつくることで、災害時、円滑に避難できる環境づくりに努めていただきたい。
- 以前、地域の防災訓練に参加したが、車いすの利用者が全ての訓練メニューに参加することができなかった。
避難行動要支援者も様々な訓練メニューに参加できるよう、実施していただきたい。
- 基本的に防災訓練は自主防災会が実施し、行政としてアプローチを行っているため、訓練の際は、関係機関同士の橋渡し役として努めさせていただきたい。
しかし、訓練実施にあたっては、避難場所に行って終わりではなく、どう避難するのかまで皆様と

体験できるように努めていく。

- 福祉避難所への避難方法について、直接避難ではなく、指定避難所へ避難して、トリアージされてから、福祉避難所に行くという考え方で変わりはないか。
- お見込みのとおり、福祉避難所は、二次避難所の取り扱いとなっている。
避難行動要支援者の人数に対して、福祉避難所の収容人数が充分にないことや、発災時に、受入れる福祉避難所の被災状況や運営体制等の調整が必要なことから、二次避難所の取り扱いとなっている。
- 団地で管理をしている施設が福祉避難所に指定されているが、避難者受入れ時には、どのような動きをしたらいいか。
また、発災時の市職員派遣や、従業員が運営する場合の指導はどのようにしてもらえるのか。
- 原則、福祉避難所は市が開設することとなっているため、市職員を派遣することになるが、運営については、指定施設の方に協力を依頼することも想定される。
そういった協力関係を築くために、福祉避難所開設運営マニュアルの作成や開設運営訓練等を共に行っていきたい。
- サイズが大きい車いすを利用している避難行動要支援者は、スロープ付きの福祉車両でないと移動が困難だと考える。
避難先から福祉避難所までの避難車両について、どのように確保するのか、早急に考えていただきたい。
- 福祉避難所については、さまざまな課題があることは認識しているが、整理できていない点もある。
本連絡会での意見等を伺う中で、運用については、引き続き検討していく。

(2) 避難行動要支援者の避難支援体制づくりに向けた啓発等事業実施にかかる 意見交換等について

避難行動要支援者の避難支援体制づくりに向けて、より多くの支援関係者の理解・協力を得るとともに、さらなる避難行動要支援者の避難支援体制づくりの促進及び避難支援についての意識醸成を図り、ささえあう地域社会づくりを目的とし、令和 7 年度から啓発等の事業を実施することになった。

市及び委託事業者から、資料 2 及び資料 3 に基づき、啓発事業の説明を行い、その内容について意見交換を行った。

(主な意見交換内容)

- 本企画実施にあったっては、高齢者等にもわかりやすいような表現を心掛けてほしい。
- 委員指摘のとおり、進めていく。
- 外国人への対応については、どのように考えているか。
- 本件は、避難行動要支援者の避難支援体制づくりに向けて実施しているため、今年度の実行委員の呼びかけについては、当事者団体や福祉事業者等に行っている。
しかしながら、様々な地域での多様な取り組みをどのように横つなぎしていくのかについては、重層的支援におけるテーマだと考えるため、可能な範囲で検討を進めていく。

- イベント等を通じて、顔の見える関係をつくることは、防災や防犯に活用できると考える。
本企画を活用し、自分の地域でも、地域住民と深くかかわりを持てるような取り組みができればよいと考える。
- 委員の意見を参考に取り組を進める。
- 地域では、イベントに力を入れているが、ハザードマップ等防災について取り上げることで、気づきが生まれ、やらなければならないという意識が出てくると考える。
新しいハザードマップについて広めていき、訓練にもつなげていけたらと考える。
- 委員の意見を参考に取り組を進める。
- 防災訓練等に若い世代が来ていない印象がある。
若い世代をいかに巻き込むのが大切だと考えるが、本企画ではどのように考えているか。
また、キューズモールで実施するにあたって、避難行動要支援者について知らない市民に対して、どこまで理解してもらえるものか疑問に思う。
- 本企画は、イベント形式にして、色々な世代の皆様が避難訓練等に参加したいと興味関心が湧いてもらいやすいような、触れやすい企画を実施することが大切だと考える。
キューズモールには、避難行動要支援者について関心がない方が多数いると考えるため、避難訓練やわかりやすいパンフレットを見て関心を持ってもらうきっかけになればと考える。
また、それをきっかけに、既に避難行動要支援者についての取り組みをしている団体や施設等とつながるようになればよいのではないかと考えている。

以 上